

特別活動研究会 会報9号

KAWASAKI 特活

学級活動 (1) (2) (3) 児童会活動 クラブ活動 学校行事

川崎市立小学校 特別活動研究会

検索



令和5年度 小教研授業研究会 特別活動
令和5年11月15日(水) 川崎市立下平間小学校



2年 組

学級活動(2) 「自分の目をまもろう」 (ウ 心身ともに安全で健康な生活態度の形成)

ねらい

目の健康を守るための生活の仕方に気付き、目の健康を守るためによりよい生活の仕方を話し合っ、自分のめあてをもって実践できるようにする。

<研究協議より>

- 子供達が自然体で学び、他者を意識して話したり聞いたりする姿が印象的だった。
- T1とT2の関係がとてもよく、板書と児童への声かけなどチームワークよく授業を進行していた。
- 2年生に目の構造を伝えるのは難しいと思ったが、模型を使って説明した際の子供達の反応が良かった。
- 「姿勢」「時間」「距離」という視点でめあてを立てていた。その中でも、「時間」のめあてを立てている児童が多かった。
- 子供達が自分ごととして捉えるために、「つかむ」を大事にした。「見つける」では、具体的なめあてを立てられるように、数字を入れるように意識した。
- 今と比べてめあてを立てることが大事。ゲームやパソコンなど、誰がどれくらい画面を見ているのかがわかるアンケートがあるので、それを使って比べていきたい。
- 今後はめあてをカードに書き、見えるように掲示し、毎日声をかけていきたい。

<指導講評：川崎市立稗原小学校 校長 齋野保史先生>

- 自分事として考えるきっかけとなる「つかむ」の段階はとても重要。
- 養護教諭の専門的な話は貴重なだけに、養護教諭から何を伝えるのかの内容の精査が大切。
- 自分に合った具体的な解決方法や目標を意思決定できていた。
- 具体的な助言が、児童の具体的なめあてになり、実践意欲にもつながる。
- ふり返りを次のめあてづくりに活かすことが深い学びとなる。
- 日常の教師の声かけが信頼関係を育み、学級経営の充実にもつながる。

4年 組

学級活動(1) 議題「2023年がんばったね集会をしよう」

ねらい

学級生活をより楽しく豊かなものにするために、友達の立場や思いを受け入れながら、クラス集会の内容を話し合っで決めることができる。

<研究協議より>

- 事前にめあての共有があったからこそ、子供同士でめあてである「協力」に立ち返って話し合うことができていた。
- 子供達の思いがあったからこそその良い話し合い。本気で話し合っていた。
- 話し合うこと2(柱2)では、どちらの方が工夫できるかで終結していた。事前に工夫を考えておく方法もある。
- 教師が時間に焦って声をかけた際に、子供達が、「もう少し話し合いたい。」と主張する場面があった。納得するまで話し合いたいという思いが表れた場面だった。
- 学級会は価値づけや評価が難しい。
→教科等の学習と一緒に。発言回数だけでなく、少人数で話し合う様子や反応、ふり返りカードなど。
- 教師の出どころが難しい。
→話し合いがめあてからそれてしまっている時。少人数の意見があまりにも尊重されていない時。
子供の話し合いに無理に入っていくのではなく、ポイントとなる場面に終末の教師の話で価値づけすると良い。

<指導講評：川崎市立菅生小学校 教頭 西谷秀人先生>

- 議題と提案理由で話し合いの質は決まる。話し合う必要感を感じているか。提案理由に共感しているか。
- 共同的な話し合いを目指したい。ディベートや論破ではない。
- 少しでも不安なことはないか。→納得する気持ちを引き出す。この条件ならやってもいい。
- 子供の声をひろって価値づけするとよい。新たな見方を広げる発言や寄り添った発言。
- 学級活動(1)を丁寧に実践することで、子供から慕われ、保護者からも信頼される。